

## 気象ビジネス推進コンソーシアム 第4回運営委員会議事概要

- ・日時 平成29年7月25日(火) 13:00~15:00
- ・場所 富士通デジタル・トランスフォーメーションセンター 会議室
- ・出席者 委員18名中、17名出席。(1名欠席)

### ・議事概要

#### 1 気象ビジネス推進コンソーシアム ロゴ使用規程(案)

##### 【主な意見】

事務局自体のロゴ使用はどうなっているのか。コンソーシアム自体のプロモーションに使うことを明記すべき。

営利目的とは、どこからどこまでを指すのか。

厳密な定義はしていないが、WXBCを周知するのに活用いただくことを想定しており、各事業者様の営業に使うとなると営利目的となると考える。

例えば、(営利目的なく)熱中症対策の普及啓発セミナーを行い、将来的に特定の飲料が売れるような場合等が、営利目的とみなされるのか。

その時点で営利目的でなければ営利とみなさないと考えるが、この点については、皆様にも意見を伺いたい。

使用目的が変われば、その時点で再申請するものとする。

明らかにこれは営利目的だといった基準はあるのか。イベント等で会員と共同で使うような場合等が考えられるが。

会員としての証明として、名刺に入れる等はいかがか。

名刺の場合はWXBC自体のプロモーション性が強いのでよいのではないか。あらましの基準を決めて、その時その時の目的、範囲で精査をするしかないのではないか。

ロゴを使って宣伝・営業的に使う意図が明らかに見えるものは遠慮いただくような規程でよいか。

例えば、商用のパフレット等で、WXBCで作ったものでないものにロゴを入れ、いかにも惑わせる様なものであれば営利目的と判断することになるだろう。

ロゴの配布については、ホームページ(HP)で公開等をするのであれば会員以外も自由にダウンロードして使用できることになるが、会員専用ページで配布する等の対策についてはどう考えるか。

使用規程を明示した上で、ロゴをHPで自由にダウンロードできるように公開するので、特段問題ないのではないか。

発表資料について、パワーポイントのテンプレート（表紙、中身）も規定した方がよい。

デザインも含めて、調整する。

#### 【決定事項】

WXBC 事務局の使用に係る規定を明記したうえで本内容を了承することとし、HPで公開する。

### 2 人材育成WG、新規気象ビジネス創出WGメンバーの変更

#### 【決定事項】

人材育成 WG：

日通学園流通経済大学・(国研)農業・食品産業技術総合研究機構・ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)のメンバー追加を承認。

(株)IHI・日本IBM(株)の脱退を承認。

新規気象ビジネス創出 WG：

日通学園流通経済大学・(株)ライフビジネスウェザー・ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)・ウェザーニューズ(株)のメンバー追加を承認。

### 3 今年度のWXBC総会、気象ビジネスフォーラムの開催日、会場について

#### 【主な意見】

パネル展示の場所は確保されているのか。

ホール横に確保している。

#### 【決定事項】

平成30年2月13日に一橋講堂で開催することを決定する。総会及びフォーラムの内容は今後検討することとする。

### 4 6/21(水)第2回、7/19(水)第3回人材育成WG開催報告

#### 【報告概要】

- ・WG内で「気象データを分析し、ビジネス提案ができる人材の育成計画」、「業種業態、地域特性に合わせた人材育成&出張講座の実施計画」、「テクノロジー(IoT、AI)を利用した気象ビジネスを構築できる人材の育成計画」を検討課題として、議論を進めている。
- ・業種業態に関する人材活用については、新規気象ビジネス創出WGと連携を図るべく、同WG座長と相談の上で進めている。

## 【主な意見】

気象ビジネスをリアライズできる人材を早く育てる。大枠この方向で進めたいが如何か。

育成されるような対象の人材がないため、WXBC が立ち上がったと認識している。そういった意味で、セミナー等で教えるという態度では上手くいかないのではないかと。育成するというよりは、それが育つ環境を提供する観点がないと中途半端な知識を与えるだけになりかねない。今行っていることを進めつつ、我々自身にも足りないところを補う場とも考えた方が成功すると考える。

気づいて自分で変わろうとする意識が必要。ご意見の側面は強めていきたい。

人材育成 WG ということで各種計画にそのワードを使っているが、共に“気づこうとする”、“育とうとする”、“学ぼうとする”場を提供することと考えている。ワーディングの工夫はしていくとして、基本にそういった思いがあることは共有しておきたい。

「気象ビジネス」という言葉が先行しすぎている。気象ビジネスをやりたい人を集めるのではなく、既存ビジネスに気象データを活用して伸ばしたい人を集められるとより広がりがみられるのではないかと。

気象情報を事業に使うことが、実はシーズであることを気づいてもらえるような掘り起こしができるように、表記も心がけていきたい。

「上からではなく、一緒にわからないところ、足りないところを探しましょう。」といった一緒の目線で取り組むことが必要。

マインドの問題、スタンスについて意見を頂いたので、参加者募集の際の文案などにも注意しながら進めていきたい。

セミナーをやることを目標にしてはいけない。何のためにセミナーに参加したのかの拾い上げも行う必要がある。

前回の運営委員会では、気象データを知らない方に基本的なことを伝えていくことが周知されたが、今回変わったこととの背景として、第1回のセミナーの開催状況、第2回セミナーの募集状況を踏まえると、このままではまずいと判断し、手を変えてIT技術者向けの企画等を早急に検討することにしたことをお知らせしておきたい。状況を踏まえ、第3回のセミナーには新しいアプローチを盛り込んでいきたいと考えている。WXBCの設立から5か月が経とうとしており、WGの活動を広く知ってもらいたく、できるものから早く実施していくことを考えている。

継続性をもっていないといけない。セミナー参加者のニーズを拾い続ける必要もあるし、参加者に教えた知識があとになっても取れる・再現できるようにする工夫が必要。アンケートを解析して反映できるような議論の体制が必要。これから用意するHP等で利用者からの疑問の受け付け、教材の提供等、イベント以外も含めて継

続的に行えるようにするとよいのでは。

今後とも状況を見直しながら進めていく。初動として基本的に同意いただけるなら、具体化に着手したい。

コミュニケーションをきちっとやっていくことが重要。

“気づき”は大切だが、どうすると気づくのか、トップダウン・ボトムダウン・コミュニケーションをとる・手を動かす等いろいろな要素を踏まえながら皆で志をもって進めていければよい。

## 5 7/3(月)第2回新規気象ビジネス創出WG開催報告

### 【報告概要】

- ・ビジネスWGの目的について議論をし、「気象データとビジネスをつなぐ人材が必要として、人材育成WGと連携して進めていく」、「(利益を生み出す事に主眼を置いた)事例集を作成し、ビジネスを企画・プロデュースしていく人に気象がこんな風に見えることが伝わっていない人に知ってもらおう」、「ビジネスを展開していく上で、制度面で上手く行かない点等があればその解消も含めて検討していき、(利活用事例集から)新規気象ビジネスのモデルを創出する」ことを活動の柱とする。

### 【主な意見】

アジアオープンデータハッカソンのインプットセミナーを7/22に行った。気象予報士に参加してもらい、気象データに関する必要な説明を行ってもらい、アイデアソンを行った。

8/5、6にハッカソンを行うが、気象予報士にもアドバイザーとして参加してもらい、ビジネス・ITの人達との接点を持ってもらい、自分達の活動の幅が増える事を知ってもらう、ビジネス・ITの人達(参加者)には気象予報士にこういったアドバイスがもらえることを知ってもらう、そういう場の一つとしてどこまで有効かを検証することも考えている。

## 6 その他

### 【報告概要】

- ・7/22(土)に開催したシンポジウム『気象衛星ひまわり～宇宙からの最先端データが切り拓く未来～』について開催状況、アンケート結果等をニュースレターで報告すること等が報告された。
- ・「地球ウォッチャーズ - 気象友の会 - 」に入会すると、最新の気象情報、出版物などを知ることができることが紹介された。